

短期大学新入生の被服教育に対する期待
 岐阜女短大 ○山田令子 愛知淑徳短大 竹下弓子
 東海学園女短大 辻 啓子 岐阜女短大 林 豊子

目的 文部省教育課程審議会では、小・中・高における家庭科教育の見直しが行われ、従来の家庭科が大きく変革される中で、短大における被服教育についても再検討する時期に来ているのではないかと考えた。そこでより充実させるための資料を得ることを目的として、前報では2年間被服を学んだ学生がその教育内容をどう受け止めているかを考察したが、今回は、新しく入学した学生の被服教育の内容に対する期待、また、入学時にすでに学習されている理解度について調査し、前報との比較検討を行った。

方法 A：調査内容 1) 分野別必要度—被服学をデザイン、材料、構成、消費科学、着装、管理、生活文化の7分野に分類し、さらに各分野の内容を5項目に分け、学びたい程度をどう考えているかについて、5段階評価で回答させた。2) 基礎知識の理解度—先の35項目中、34項目について、必要最小限の基礎知識と考えられる問題を各2問作成し、その理解度をみた。B：調査対象は受験情報誌の偏差値が近似な被服学科と家政学科から1校ずつ選定した。

結果 1) 「非常に学びたい」の出現率が5項目とも高い分野は管理関係で、次いで着装、デザイン関係である。また、学科別では「非常に学びたい」が高率で出現した項目は被服学科では「製作技術」であり、家政学科では「合理的な購入方法」である。2) 基礎知識の理解度について、新入生の正解率が高いのは、構成、デザイン、消費科学関係で、低いのは、材料、着装、管理関係である。3) 2年間学習した学生が、新入生に比して正解率が高いのは、デザイン、材料、管理関係である。